

COVID-19に揺らぐ米国と中国 —日本への期待

東京大学大学院教授
高^{たか}原^{はら}明^{あき}生^お

- * 核心的利益重視への転換
- * 習近平の内憂外患
- * 深まる米中の口先対立
- * 自由香港の消滅
- * 強権でコロナ禍抑え込み
- * 危うさ孕む経済復興
- * 「戦狼外交」の背景
- * 日本はどう対応すべきか
- * 首脳交流の重要性
- * 中国は変わっていく



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は東京大学の高原先生にお願いいただきました。中国につきましてはさまざま問題が取りざたされておりますし、日本にとりましてもこれから中国とどう付き合っていくかを含めてたいへん難しい時期にきていると思います。

来週が祭日でございます。その次は7月31日ですが、今年は今回で7月の講演会を終わりにして夏休みに入りますので、たいへん恐縮でございますが、皆様にはまた9月にお元気な姿で御目にかかりたいと思っております。それでは高原先生よろしくお願いいたします。（拍手）

高原 元氣よく話しても皆さんのところまでは飛沫は飛ばないと思えますので、マスクをはずしてお話しさせていただきます。私は何回も

ここに立たせていただいておりますが、これまでになく皆さん静かに座っていらして。本当に早くワクチンができてくれることを祈るばかりです。世界中がそう思っている中で、大きなインパクトを受けているアメリカと中国、その間の関係がいよいよのつびきならないことになってきている。その状況下で日本はどうすればいいのか。そういったことをテーマにお話し申し上げていきたいと思えます。

核心的利益重視への転換

前回ここにお邪魔しましたのは昨年3月だったと記憶しております。その後いろいろな事態の展開がありましたけれども、大きな問題の一つはもちろん米中の関係です。去年4月までは